

はじめに

「学生と教員が共に成長する『SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～』」の取組は、平成 26 年（2014 年）に、文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP）のテーマ I 「アクティブ・ラーニング」に採択されました。平成 26 年度を実施準備の期間とし、平成 27 年度から「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」を開講しました。本報告書は、平成 29 年度の徳島大学大学教育再生加速プログラム事業の全容を記したものです。

「SIH 道場」は、「鉄は熱いうちに打て（Strike while the Iron is Hot）」の頭文字をとって名づけました。入学直後の学生の意欲は高くても、次第にモチベーションが下がってしまいます。そこで、「鉄は熱いうちに打て」の精神に則り、学生が入学した直後に高校から大学への学びの転換を促し、学生の学修意欲の向上を目指します。学生は、SIH 道場を通して、①専門分野の早期体験、②ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の修得、③学修の振り返りを行います。しかし、SIH 道場で学ぶのは学生だけではありません。教員も SIH 道場の担当を通して、①アクティブ・ラーニングの実質化、②反転授業、ルーブリックによる評価法の修得、③教育経験の省察を行います。平成 27 年度以降の学部新入生は必ず SIH 道場を受講し、教員は、今年度担当した教員とは別の教員が来年度の SIH 道場を担当します。このように、SIH 道場を契機として、学生と教員がアクティブ・ラーニングを共に学び、学士課程全体に波及することで本学の教育文化を変えていきたいと考えています。

また、平成 28 年度からは徳島大学は AP テーマ I 「アクティブ・ラーニング」のテーマ別幹事校という新たな役目も任されることとなりました。今後、テーマ I 採択校 9 校が連携して成果を共有し、発信していくことで、AP の掲げる「高等学校や社会との円滑な接続のもと」での「入口から出口まで質保証の伴った大学教育」の実現という目標に対する取組がより深まることを期待しています。この目標に向け、今後も学生や教員の意見を取り入れながら事業全体の改善を図って参りますので、引き続きご支援の程よろしくお願い致します。

平成 30 年 3 月

徳島大学大学教育再生加速プログラム実施専門委員会委員長
徳島大学理事（教育担当）副学長

高石 喜久